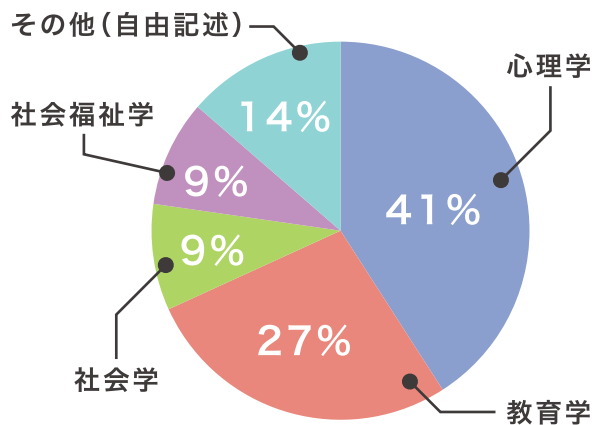


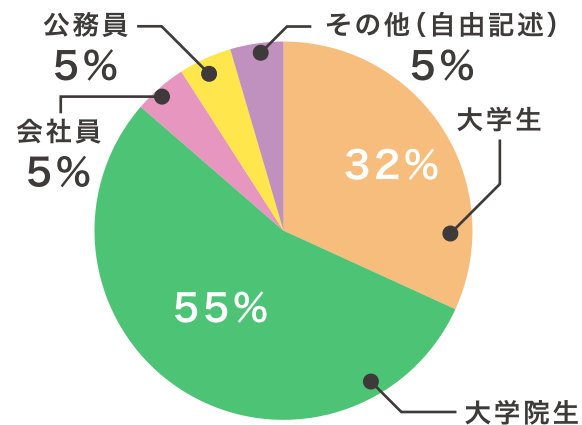
このページでは、入省5年目までの人間科学職採用の職員22名を対象に、アンケートを実施しました！入省前から現在まで振り返ってもらい、就職活動を頑張っている皆さんへのメッセージを書いてもらいました。

Q1 大学での専攻は？



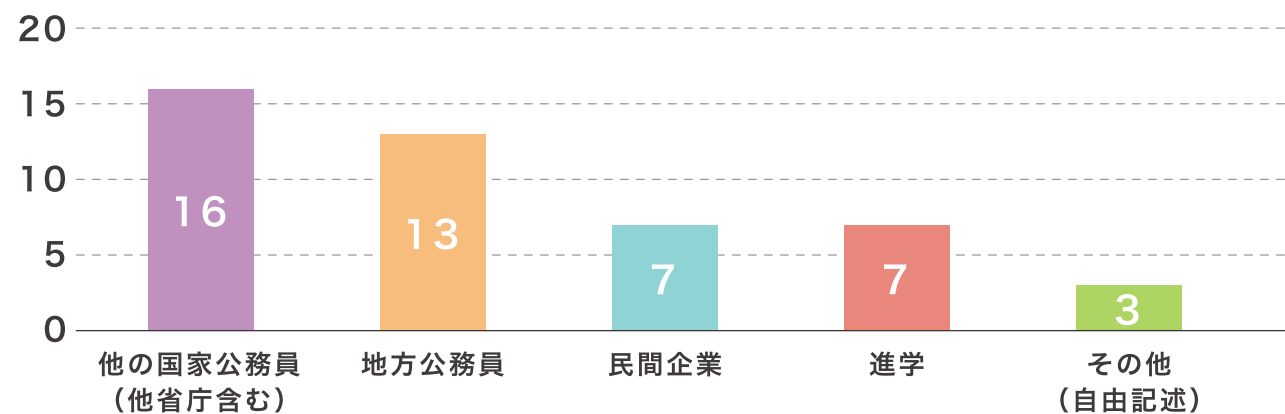
「その他」には、法学や数学を専攻していた人がいました！

Q2 入省前は何を？



大学院生をしていた人が半分以上でした。自分の研究が、厚生労働行政へ興味を持つきっかけになる人が多いようです。

Q3 ほかに志望していた進路は？



Q4 官庁訪問の思い出は？

他省庁と比べて、拘束時間が短かったこと。

周りの人がみんな優秀そうに見えたこと。

面接時の緊張のあまり、控室の場所を忘れてしまい、省内をしばらくさまよったこと。

官庁訪問で知り合った受験生と、面接の合間にランチやお茶を楽しく一緒にしたこと。今では大事な同期の1人。

地方から東京にきて、通勤ラッシュを初めて体験したこと。

思っていたより部屋が狭く人口密度が高いとわかったこと。

「周りが優秀に見える」はあるあるですね(笑)

Q5 学生時代にやっておけば良かったことは？

海外留学、海外旅行。

語学、PCスキル修得。

様々な書籍に触れること。

気分転換やストレスコーピングの術を身につけていること。

自分の専攻+αの勉強(関心をもっと広く持てばよかった)

自分のやりたいことに時間をつぎ込めるのは学生の特権ですよ。やり残しのないよう頑張ってください！

Q6 入省前とのギャップは？

部署によるが、想像以上に他部局、他省庁と連携しながら仕事をすることが多いと感じた。

長時間労働が当たり前の世界だと思っていたが、マンスリー休暇(月1日の計画的な有給休暇の取得)や定時退庁日を徹底しており、思ったより働きやすい。

よく遊ぶ人が本当に多いことに驚いた。プライベートと仕事のメリハリをしっかりとっており、漫然と時間を過ごしている人は少ない。

「人間科学職」というと心理学等を専門にした技官というイメージが強かったが、事務官として期待される役割が大きいことに(良い意味で)驚いた。

ちなみに、有休は分割して取ることも可能なので、ちょっとした用事があるときに、柔軟に時間休を取得することも可能ですよ～

Q7 今までで一番やりがいを感じた仕事は？

他省庁と連携してイベントを開催したこと。事前準備から当日運営まで、委託業者とも連携しながら進め、後日イベント参加者から、ためになったとお声をいただいた時はやりがいを感じた。

平成28年度の熊本地震への対応。熊本労働局との窓口を担い、様々な調整業務で多忙を極めたこともあったが、微力ながら震災対応に貢献でき、日々復興していく様子を体感することができた。

法令関係の改正を行ったこと。改正に至るまでには膨大なプロセスがあり、それに伴う調整も何度も行う必要があった。また、手続きでは絶対にミスできないという緊張感があり、無事に改正が終わったときは、本当にほっとした。

各国の公共職業安定所を管理する省庁が集まる国際シンポジウムに参加し、日本の若年者雇用制度についてプレゼンや意見交換したこと。

労働局向けに求職開拓事業(ハローワークを利用していない潜在求職者の掘り起こし事業(特に若年者))の好事例集を作成し発出する業務。

厚生労働行政は、人の一生に対して寄り添い続けるものであり、それだけにどんなに小さな仕事であっても大きな責任が伴います。しかしそれだけ、やりがいは大きいです。

以上、若手職員の声についてお届けして参りましたが、参考になりましたか？皆様のご訪問を、人間科学職一同心よりお待ちしております。